

令和7年度 カウンセリング学位プログラム 入学試験

問題1

1-1.出題意図

この問題は、カウンセリングの各領域および関連領域の基本的専門用語を提示し、その解説を求めるものである。カウンセリングに関連する重要な基本的用語を正確に理解し、簡潔に重要なポイントを絞ってまとめる能力を問うことを目的としている。

1-2.問題文と解答例

以下の7つの用語について、それぞれ100字～200字の範囲で説明しなさい。

(1) 自己中心性 (egocentrism)

ピアジェが提唱した概念であり、子どもの思考や発話が自己視点のみに立脚し、他者視点を考慮することができない状態のこととなります。ピアジェは自己中心的発話の研究で、子どもが相手の知識を理解できず唐突な発話をすることを示した。代表的な研究に「三つ山課題」があり、前操作期には自己視点が唯一の視点である子どもが多いが、具体的操作期には自己と他者の視点の協応が可能になることを示した。

(2) 帰無仮説と対立仮説 (null hypothesis and alternative hypothesis)

帰無仮説とは、統計学における仮説検定の際に設定されるものであり、例えば、「新しい学習方法と従来の学習方法の効果に差はない」という形で設定され、最終的に棄却されることを期待して設定されることが多い。対立仮説とは逆に、例えば「新しい学習方法と従来の学習方法の効果に差はある」という形で設定される仮説であり、データの収集もしくは統計的検定を経て、帰無仮説を棄却することによって採択される仮説をさす。

(3) ドア・イン・ザ・フェイス・テクニック (door-in-the-face technique)

相手を説得させるためのテクニックの一つであり、まず相手がほぼ確実に拒否する過大な要求をし、その後に本命の小さめの要求へ引き下げるというものである。最初から本命の要求をする場合よりも、相手が承諾する可能性は高くなる。

(4) 宣言的記憶 (declarative memory)

言語やイメージによって意識的に再現できる事実や出来事の記憶である。陳述記憶とも訳される。長期記憶の一種であり、エピソード記憶と意味記憶に分けられる。意識的に再現できるという意味で顕在記憶と同義で用いられる場合もある。宣言的記憶の対立概念は、非宣言的記憶であり、手続き記憶、プライミング、古典的条件づけ、非連合学習が含まれる。

(5) 気質(temperature)

生得的で比較的安定した情動・行動の反応傾向を指し、人格の基盤をなす概念である。遺伝的・生理的要因に根ざし、乳幼児期から観察される。代表的理論として、Thomas & Chess の「気質の9次元」、Cloninger の「気質・性格モデル」に加え、Schneider の人格類型論が挙げられる。これらはいずれも、気質が環境との相互作用を通じて人格形成に影響を及ぼすことを示している。

(6) 森田療法 (Morita therapy)

森田正馬は、さまざまな神経症圏の症状の背後に存在する共通した性格傾向を神経質性格と呼び、この性格を基盤として「精神交互作用」と「思想の矛盾」からなる「とらわれの機制」と呼ばれる特有の心理的メカニズムによって症状が発展すると説明した。森田療法は、症状を無理に排除しようとせず、とらわれから脱して「あるがまま」の心の姿勢を獲得できるよう援助する精神療法である。

(7) 集団浅慮 (group think)

集団浅慮とは、集団による意思決定の過程において、意見の対立を回避し、集団の調和を維持することを過度に優先した結果、非論理的または非現実的な結論に至る現象を指す。これは、集団の凝集性が高く、外部からの情報が遮断され、指導者が特定の意見を強く支持する状況で生じやすい。集団浅慮に陥ると、構成員の批判的思考が抑制され、異論が封じられる傾向がみられ、結果として集団は自己過信に陥りやすくなる。

問題 2

2-1.出題意図

問題文は、感情の神経学的側面や進化的側面について多面的に述べた「情の理」論（遠藤利彦著 2013 年）から抜粋したものである。感情の機能を理解し、臨床実践におけるクライエント理解を深める点でカウンセリング学位プログラムの受験生に資する有益な題材と考え選定した。

2-2.問題文と解答例

以下の小論を読んで、次の問い合わせに答えなさい。

1. 小論の内容を 200 字以内で要約しなさい。

恥は進化の過程でその役割が変化した。初期には身体的強さに基づく階層構造の中で、自分が劣位であることを認めてそれを伝えることで葛藤を回避するために有効で、恥を感じても存在や繁殖を継続するために有効であった。進化が進むと、社会的威信が階層を支配する原理となり、恥をかいた場合の心的苦痛や不名誉な感覚を予期することで、社会的協力を促進する道徳的な役割を果たすようになった。

2. 小論の内容を踏まえながら、恥の機能について、あなたの見解を具体的な例をあげて 400 字以内で述べなさい。

(省略)

問題 3

3-1. 出題意図

問題文は、内閣府が公表した「令和 5 年度版男女共同参画会議白書」の 14 頁から 15 頁のデータを一部抜粋・改変したものである。本調査は、6 歳未満の子どもを持つ妻・夫の家事関連時間及び妻の分担割合の推移（週全体平均）を示した図 1（3 つの図）と、男女別にみた生活時間（週全体平均：1 日あたり、国際比較）を示した図 2（2 つの図）を総合

的に判断し、図から言えることを論じる課題である。専業主婦と共に働き、家事分担割合、無償有償労働時間を多角的な視野から把握する図を選定した。労働に関わる問題は、カウンセリング学位プログラムを志望する受験生にとって関連性が高く、データの読み取りの難易度も適切であると判断し、これを選定するに至った。

問1は、複数の図表から重要な情報を読み取り、それらの関連を論じる力を問う問題である。問2は、問1で得られた知見をもとに、明らかになっていない問い合わせを設定し、それを検証するための研究計画を立案する力を問う問題である。これらを通して、与えられたデータから本質的な情報を抽出し、研究計画へと発展させる力を評価することを目的としている。

3-2.問題文と解答例

以下の図1は、6歳未満の子どもを持つ妻・夫の家事関連時間及び妻の分担割合の推移（週全体平均）を示したものである。また、図2は、男女別にみた生活時間（週全体平均：1日あたり、国際比較）を示したものである。

1. これらの図から読み取れる、家事関連時間、分担割合および労働時間について300字以内で論じなさい。

図1から読み取れることは、共働きでは妻の方が5倍くらい、夫より家事関連労働時間が多くのことである。専業主婦の場合は6倍以上夫より家事関連労働時間が多いことが読み取れる。分担割合は、過去15年間、共働きでは8割5分から7割7分に落ちているがあまり変わらず、専業主婦は9割から8割4分に落ちているが、専業主婦が圧倒的に夫よりも家事時間を費やしている。図2に目を向けると、日本のみが、男性の有償労働時間が1日あたり200分も女性よりも長いということになり、無償労働時間はさらに1日あたり女性の方が183分も長いという差が表れている。海外では男女差が少ないことがうかがえる。

2. また、1.で指摘した点について、より詳細に分析するためには、他にどのような調査を行う必要があると考えるか。あなたが必要だと考える調査の方法や対象、項目などについて、300字以内で記述しなさい。

（省略）